

幼児期(3~5歳ごろ)の大切なこと②

人と関わる力を育みます

- 気持ちを聞いたり伝えたりする関わりを通じて、人の気持ちを感じる力が育まれます。様々な関わりが、他の人への共感や思いやりにつながります。

思いを伝え合う

思いを伝え合うことで、人の気持ちを感じる力や共感が育まれます。

子どものやりたい事をしながら、思いを伝え合うことで、他の人の思いも受け入れるようになります。
力を合わせるよさも経験します。



特に

気持ちを表す対話によって、人の気持ちを感じる力や共感が育まれます。

気持ち(感情)を表す会話をよく行うことが、感情の理解につながります。



大人が見本を示す

思いやりのある大人の行動を見ることで、子どもの思いやりが育まれます。

大人がしているまわりの人への親切や、思いやりのある行動を、子どもが見ることで、子どもの思いやりを育むことができます。



子どもの思い通りにいかない場面でも……

話(提案など)のやりとりをすることで、人の気持ちを感じる力や共感、がまんする力が育まれます。

子どもが希望しても、それを認められない場面は日常よくありますよね。ダメなことはダメと伝えてください。でも、「これならいい?」「こうだったら?」と続けて話してやることもあるでしょう。そのやりとりが大切です。

子どもは、自分のやりたいようにできない経験から、何がダメだったのか、どんなやりとりをすればよかったのかなど、人との関わり方を学んでいきます。

提案がうまくいってうれしいと感じたり、うまくいかなくて残念に思ったりすることも、子どもの経験の一つです。



子どもの「未来に向かう力」は、家庭だけでなく、地域や、幼稚園・保育所・認定こども園など、安心できる大人との関わりの中で育まれます

幼稚園や保育所、認定こども園などでの遊び(活動)が、「未来に向かう力」の育成を後押ししています!



大方先生

幼児教育や保育の中で「未来に向かう力」を育むために、各園所の教員や保育士などの職員は、子どもたちの安全基地となり、子どもたちに様々な体験ができるように努めています。遊びは其中で大きな役割を果たしています。自分の興味があることで遊んだり、成長とともに友だちと関わるようになっていったりしながら、「目標に向かってがんばる力」「気持ちをコントロールする力」「人と関わる力」も育まれています。



子どもの「未来に向かう力」を育むための関わり方は、ご理解いただけましたか。紹介している関わり方の中には、普段の子育ての中でやっていることもあったと思います。

とはいえ、忙しい日常生活の中で、これらのすべてに気を付けることは簡単ではないでしょう。ですので、心の余裕がある時に、どれか1つだけでも心にとめて、お子さんと接していただけるといいかと思えます。

乳幼児期に育んだ「未来に向かう力」は、学習内容を理解する力・考える力を育むことにつながったり、友だちと協力したり、困った時に人を頼ったりする力につながったりするなど、小学校以降の生活につながるものです。

このリーフレットを参考に、乳幼児期にできることを大切にしてください。



森口先生

リーフレット作成協力者 (50音順 職名は令和2年3月1日現在 敬称略)

- 安達 讓 大阪府私立幼稚園連盟理事長 (せんりひじり幼稚園・ひじりにじいる保育園長)
- 伊藤 裕子 大阪府社会福祉協議会・保育部副会長 (国分保育園長)
- 大方 美香 大阪総合保育大学 大学院教授
- 奥園 みどり 大阪府国立幼稚園・こども園会長 (大阪市立銅座幼稚園長)
- 杉岡 繁昭 全国認定こども園協会・大阪支部理事 (こども園つばさ園長)
- 森口 佑介 京都大学 大学院准教授

発行 大阪府教育委員会 令和2年3月
お問合せ先 大阪府教育庁市町村教育室地域教育振興課
〒540-0008 大阪市中央区大手前3丁目2-12
電話 06-6944-6901 FAX 06-6944-6902